

厚生労働科学研究費補助金（循環器疾患・糖尿病等生活習慣病対策総合研究事業）

**標準的な健診・保健指導プログラム（改訂版）及び健康づくりのための
身体活動基準2013に基づく保健事業の研修手法と評価に関する研究
分担報告書**

日本人間ドック学会による報告②

研究分担者 和田 高士

東京慈恵会医科大学総合健診・予防医学センター 教授

研究要旨 研究分担者として、公益社団法人日本人間ドック学会では、第55回日本人間ドック学会学術大会（平成26年9月5日、福岡）の機会を利用して、厚労科研セッションを設けた。これは特定保健指導に関する一般演題の中から本科学研究費の研究目的に沿った優秀演題7演題を選別し、特別枠としての厚労科研セッションを組んだ。その概要を紹介する。討論を通じて、聴講者に有益な情報がもたらされた。

A. 研究目的

公益社団法人日本人間ドック学会では第55回日本人間ドック学会学術大会を平成26年9月4日、5日に福岡市で開催した。今回は、本補助金により、研究目的に沿った厚生労働科学研究費セッション（厚労科研セッション）を設けた。すなわち、第3期の特定保健指導（平成30年度～）からの保健指導の課題、教育・教育訓練手法のあり方を検討することを研究目的とし、それにふさわしい演題を厚労科研セッションとして選定したものである。

B. 研究方法

研究主任津下一代と研究分担者和田高士が、一般応募演題から優秀演題7題を抽出し、発表してもらった。
（倫理面への配慮）
なし

C. 結果

発表要旨を概説する。

1) 稲垣 紀子, 安藤 敏子, 小川 咲子, 高木 有子, 猪爪 靖子, 久富 恵子, 黒木 令子, 和合 和久, 高谷 典秀, 荒井 肇: 特定保健指導実施率向上への取り組み. 人間ドック 29: 368, 2014.

（要旨）腹囲, BMI を測定した時点でリスクを説明し, 血液検査結果が出た時点で特定保健指導を受けられる体制づくりを構築した。

これにより初回面接実施率は 43% から 20% に減少した。（図表 1）

2) 堀内里枝子, 藤巻佐和子, 竜沢日出美, 村松 照美, 望月宗一郎: アドバイスシート活用の有効性についての一考察 特定保健指導積極的支援を通して. 人間ドック 29: 368, 2014.

（要旨）新たに導入したセルフモニタリングのできる保健指導ツール＝アドバイスシートを活用した群と非活用群での効果の差異を検証した。活用群で体重減少に効果がみられた。

3) 末廣 美幸, 前田 豊美, 盛川恵美子, 石本 裕美, 湯浅由美子, 牛島 絹子, 緒方 康博: 初回面談前後での健康行動意識の変化について. 人間ドック 29: 369, 2014.

（要旨）初回面談における健康行動変容について検証した。自己効力感の上昇が著しく, 内的コントロール所在, 脅威, 有益性に低い傾向が見られた。（図表 2）

4) 豊田 将之, 小津知恵子, 加藤 綾子, 津下 一代: 多量飲酒者への特定保健指導による効果. 人間ドック 29: 369, 2014.

（要旨）2 合以上の飲酒者の 6 か月間の変化では 1 合以上減少群でより多くの検査値の変化量がみられた。（図表 3）

5) 土屋易寿美, 小山奈緒美, 平山さかゑ, 鳥羽山睦子, 武藤 繁貴: 指導者の職種による特定保健指導の効果について. 人間ドック 29: 370, 2014.

(要旨) 看護師と栄養士において検査結果に差異があるかを検証した。両群ともに、腹囲、BMI、TG、FBS の減少が見られた。看護師群では AST の、栄養士群では血圧、GGT が有意に減少した。(図表 4)

6) 堀西 千鶴, 廣澤妙恵子, 西川 明希, 大宮裕紀子, 久徳 智子, 村上淳, 岡村 雅雄: 4%減量に影響する支援方法の検証. 人間ドック 29:370, 2014. (要旨) 支援方法として、手紙、電話、メール、面談に分類して検討した結果、定期的なメールが 4%減量に効果的支援と考えられた。(図表 5)

7) 村山 友木, 酒井 陽子, 宮澤 裕子, 上村 斉: 経年実施と初年実施での最終評価結果のちがい. 人間ドック 29:371, 2014. (要旨) 経年者に比べ、初年者の腹囲・体重減少率はより大であった。初年度の特定保健指導で優先順位をしっかりと見極め、具体的な目標をたてて最終評価まで取り組むことがマンネリ化を防ぐと考えられた。(図表 6)

D. 考察

これまで、公益社団法人 日本人間ドッ

ク学会では学術大会を 55 回開催してきた。そのなかで、特定保健指導についての発表は、近年増加傾向にある。しかしながら、とりまとめて論議したことはなかった。一般演題から、今年の補助金の目的である、保健指導の課題、教育・教育訓練手法のあり方について、優秀演題を抽出して、厚労科研セッションを設けた。このなかで 7 演題が発表され、価値ある成果を見出し、聴講者の教育に役立った。

E. 結論

第 55 回日本人間ドック学会学術大会で厚労科研セッションを設けて、本補助金の目的に沿った発表が一般公募からの抽出して行った。討論を通じて、聴講者に有益な情報がもたらされた。

F. 健康危険情報

なし

H. 知的財産権利の出願・登録状況

なし